株式会社ソーシャライズ代表取締役
東京外国語大学留学生専任キャリアアドバイザー
中村 拓海

外国人留学生の日本における就職課題と対策

本日の内容

1. 国費外国人留学生が苦戦する日本型就職活動
2. 教育機関別の就職状況（左）と教育課程別の就職状況（右）
3. 国籍別の留学生数と就職者数の推移
4. 外国人留学生が日本型就職活動に関して直面する課題
5. 提言①　継続就職活動の「特定活動」申請要件の緩和
6. 提言②　留学生の就職支援実務に強い人間の組織化
7. 参考資料　外国人留学生の就職支援方法

国費外国人留学生が苦戦する日本型就職活動

世界から日本に集う秀才たちが就職を希望してもできない状況を問題と感じ、その解決のため外国人留学生の就職支援に従事しています。

国費外国人留学生として日本に来ていた5名の
留学生たちは全員就職活動がうまくいかなかった。

ジョアン（ポルトガル）
ウェブテストやエントリーシートが通過できず。

フラン（スペイン）
日本語での面接が通過できず。

リャン（中国）
内定したが、本国の方が条件が良かったため辞退。

イン（中国）
書類選考で通過できず。（おそらく年齢が原因であった）

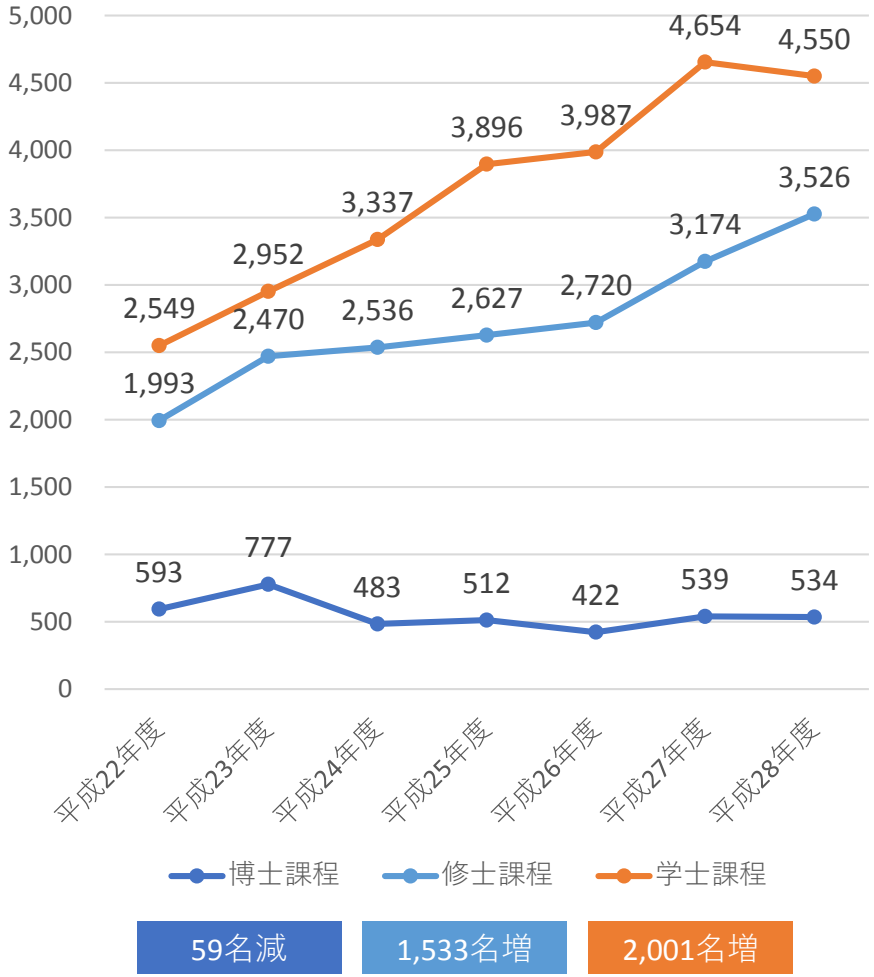
ガエタン（スイス）
進学と就職で迷い、就職活動の時期に間に合わず。

国費外国人留学生とは？

世界の優秀な留学生を獲得するため、年間290億円ほどの国家予算を費やして日本に呼び込む制度。学校在籍中、授業料無料もしくは一部免除に加えて毎月117,000円～242,000円が奨学金として支給されており、現在9000人以上が対象となっている。たとえ日本語初学者であっても、半年から１年間の日本語予備教育により、日本の大学・大学院で通用する日本語力を備えるようになる。大使館・領事館、所属する大学の推薦等により応募可能な奨学金であるため、極めて質の高い留学生が集まっている。

教育機関別の就職状況（左）と教育課程別の就職状況（右）

教育機関別では「専門学校」の就職者数の増加が激しい。
大学・大学院の課程別に見ると、博士課程の留学生が伸び悩んでいます。

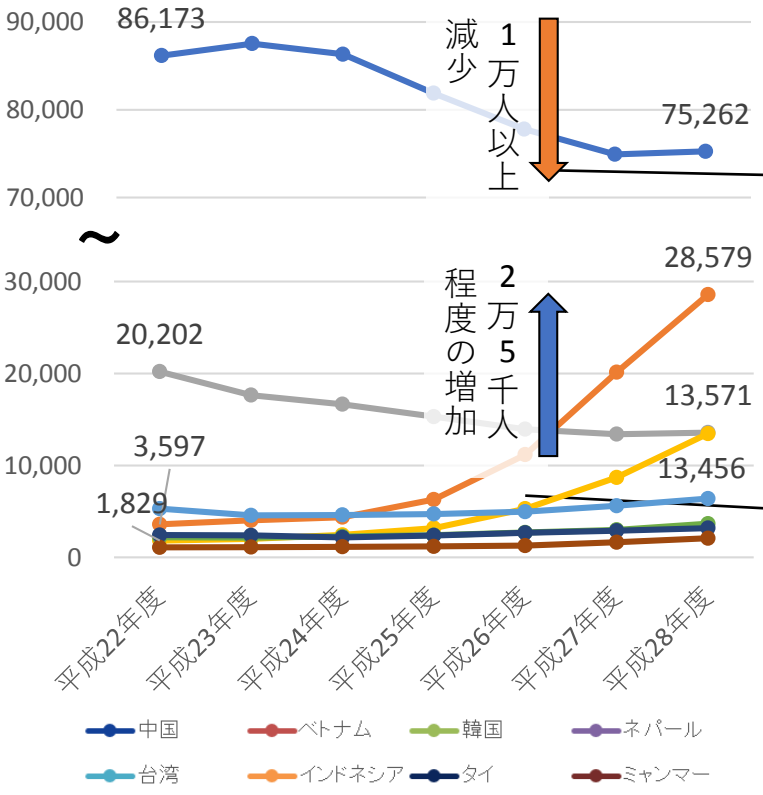


（資料）日本学生支援機構「外国人留学生進路状況・学位授与状況調査結果」より発表者作成

国籍別の留学生数と就職者数の推移

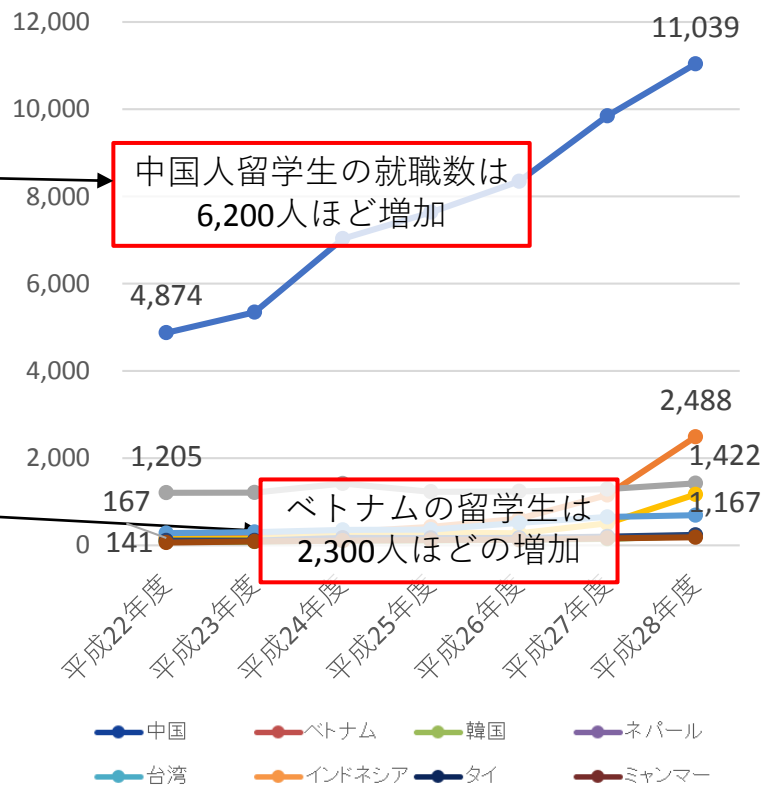
大学等に通う中国の留学生数は減少している一方、就職者数は増加しています。かたやベトナムの留学生数は急増しているが、就職者数の増加はまだ小さいです。

高等教育機関留学生在籍数の推移



（資料）日本学生支援機構「外国人留学生在籍状況調査結果」（各年5月1日現在）
（注）「高等教育機関」には専修学校（専門課程）は含むが、日本語教育機関は含まない。

国籍ごとの就職数の推移



（資料）法務省入国管理局「留学生の日本企業等への就職状況について」より発表者作成

外国人留学生が日本型就職活動に関して直面する課題

「５つの不足と壁」により、外国人留学生の就職は阻害されています。

時間

研究で忙しく、就職活動ができない（バングラデシュ 男性 B.C.D）

交換留学のため、時間が足りない（ブラジル 女性 J.M）

在留期限まであと少ししか残っていない（トルコ 男性 B.K）

情報

留学生を本当に採用する企業の情報が探しにくい（エジプト 女性 P.E）

選考は長く複雑で、情報はときどき明確ではない（フランス 女性 C.D）

履歴書は手書きでないといけないから大変（ウズベキスタン 男性 F.M）

資金

交通費の工面が難しい（シリア 女性 A.L）

アルバイトを減らすと生活が厳しくなる（中国 男性 S.S）

リクルーティングスーツなどの出費が辛い（インドネシア 男性 N.M）

在留資格

3月卒業・4月入社で申請は間に合うのか？

9月卒業、10月で在留資格が切れるが、入社は翌年の4月である。帰国しないとダメ？

専門家への依頼料で30万円を請求される。

卒業後も就職活動を続けたい。

入社したら家族を呼びたい。

日本語

SPIやESで求められる日本語は、学校で教わるものとは性質が異なっており対応できない。

グループディスカッションでは、外国人ということで他の就活生に無視されることがある。

どんなに一生懸命説明してもそもそも話を聞いてもらえない。圧迫面接がこれほどとは。日本語には問題がないはずなのに・・・

提言①　継続就職活動の「特定活動」申請要件の緩和

勉学や研究などに熱心な学生ほど、在学中に就職活動はできません。
卒業後の就職活動を広く認めていかない限り、高度外国人材は就職しづらいです。

現在求められる提出資料

1. 在留資格変更許可申請書
2. 写真
3. パスポート及び在留カード
4. 申請人の在留中の一切の経費の支弁能力を証する文書
5. 直前まで在籍していた大学の卒業証書又は卒業証明書
6. 直前まで在籍していた大学による継続就職活動についての推薦状
7. 継続就職活動を行っていることを明らかにする資料

→ 不要にする

当特定活動の特例

a. 週40時間までの資格外活動を許可する。
   → 企業はトライアル採用しやすくなる。留学生は資金面の心配が減り、仕事の集まる大都市にも出て来やすくなる。

b. 地方公共団体が実施する就職支援事業への参加を必須とする。
   → 卒業後の動行を把握・管理するとともに優秀な留学生が定期的に集まるようにして企業の採用活動を促す。

研究に打ち込み、時間がなくて就職できなかった事例

履歴書

平成 28 年 5 月 15 日現在

ふりがな	[redacted]	性別	[redacted]
氏名	[redacted]	女	
生年月日	1989 年 10 月 30 日生 (満 26 歳)		
ふりがな	[redacted]	電話	
現住所	[redacted]	[redacted]	
ふりがな		E-mail	
不在連絡先	同上	[redacted]	

年	月	学歴・職歴（各別にまとめて書く）
		学歴
2005	9	大連第 23 高等学校 入学
2008	7	大連第 23 高等学校 卒業
2008	9	大連大学 日本語言語学部 日本語学科 入学
2012	7	大連大学 日本語言語学部 日本語学科 卒業 学士学位
2013	10	エリート日本語学校 入学
2014	3	エリート日本語学校 卒業
2014	4	東京外国語大学大学院総 合国際学研究科 国際協力専攻 修士課程 入学
2016	3	東京外国語大学大学院総 合国際学研究科 国際協力専攻 修士課程 修了

自己紹介書

志望動機

私がコンサルタントという職業を志望している理由は 2 点で、そのうち 1 点目は達成感をもらえる仕事であるからです。コンサルタントとして、自分の提案と実行で業務を向上した達成感は、なによりやりがいがあると感じるからです。また、自分の考えを明確に発言し、リーダーシップを発揮することによって、周囲の人を巻き込んで行くことが自分の長所だと考えております。そのため、提案・提供するものが自分の考えや自分自身であるという部分で、コンサルタントは自分の長所を活かせる職業であると考えたことが理由の 2 点目です。

私の長所

私は「走りながら考える」人間です。数多くの目標を達成するため、行動しながら方法を探します。実際に、半年間で日本語能力試験に合格するため、現状の知識レベルを踏まえて日々の詳細なスケジュールを立て実行し、また PDCA を通じて学習方法を改善し続けました。その結果、計画通り N1 に合格することができました。

研究課題

修士課程の研究テーマは「日本における大学国際化の評価システムに関する研究」です。日本の大学国際化の背景、現状を分析した上で、その評価の必要性と目的を論じました。中心的役割を担っている欧米の実例を集め、評価方法と導入制度を分析しました。それを踏まえて今後の日本における大学国際化の評価に関する展望を示しました。

活動

旅行が好きで、先日一人でアメリカへ行きました。現地で同じ一人旅をする人とチームを作り、そこで私はイエローストーン国立公園の旅行プランの計画を担当しました。事前に公園のホームページや経験者の旅行日誌などから情報を収集し、メンバーの興味も踏まえて三日間の観光ルートを計画しました。皆楽しく有意義な時間を過ごしたようで、私も非常に嬉しかったです。

趣味・特技

趣味： バトミントン、旅行
特技： 犬に注射ができること。

修士研究に注力していたため在学中は就職活動ができなかった。そのため、
在留資格「留学」の残存期間で就職活動をせざるを得ず、結果的に時間切れとなり帰国。
→ 選考中に継続就職活動の「特定活動」を申請できれば就職できる可能性あり。

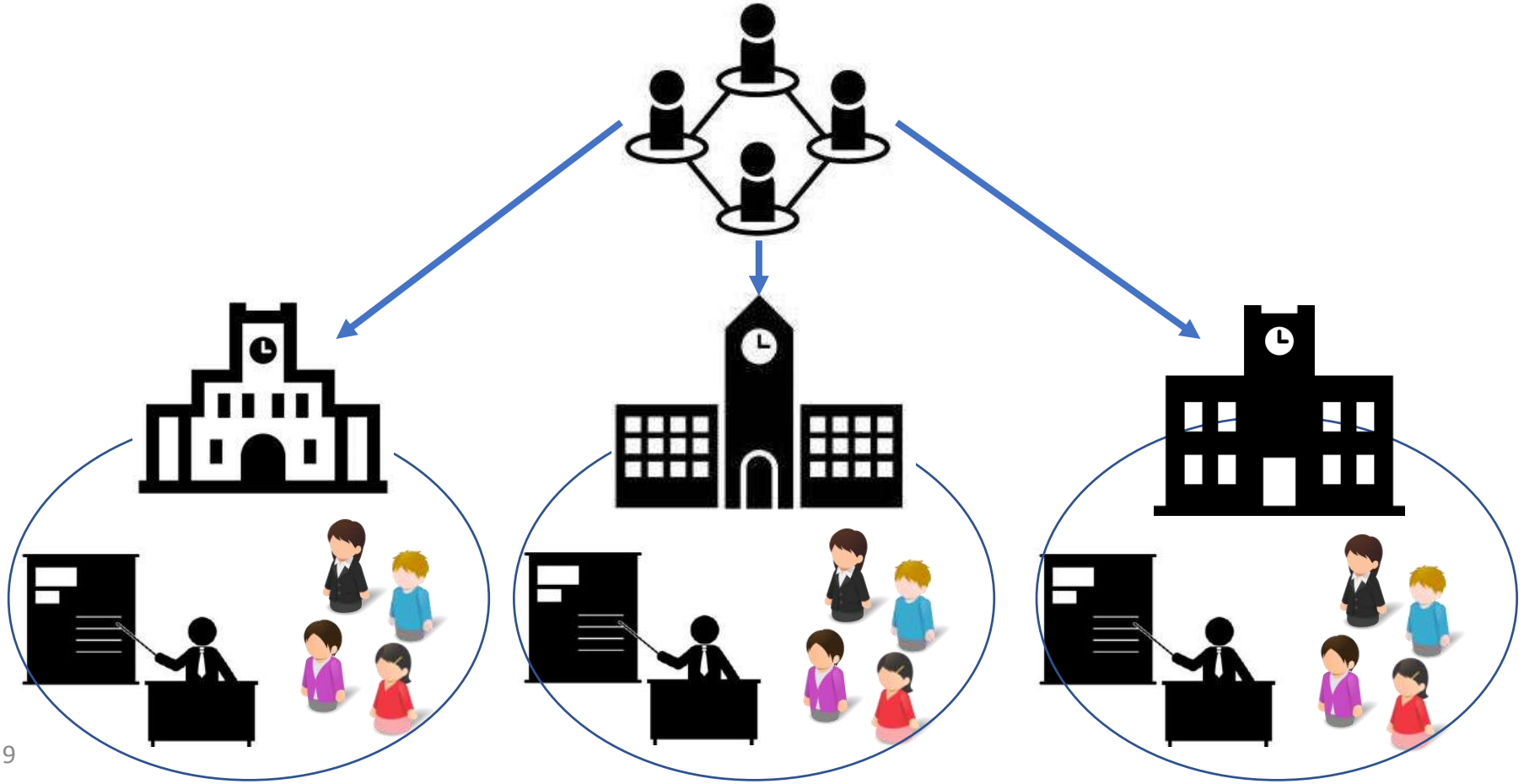
提言②　留学生の就職支援実務に強い人間の組織化

例えば、一定期間以上留学生の就職支援を大学等で行った者や、

下記に示す最低限必要な知識を有する者を選抜する。

● 日本企業の留学生採用動向に関する知識　● 在留資格に関する知識

● 留学生の文化や慣習に関する知識　● 労働関連法規に関する知識　等



参考資料　外国人留学生の就職支援方法

外国人留学生への就職支援は多様であるが、基本的な方向としては3つある。

① 日本型就職活動を日本人以上に準備させる。

② 日本企業との関係づくりを支援する。

③ 条件や待遇面の希望を見直すよう促す。

どの型に当てはめるかは、個別面談を通じて本人の希望を把握し、合意を取りながら進めていくことが大切である。

また、限られた人員で、より多くの留学生の就職支援をするためには、“自分でできる学生には自分でやらせる”というやり方が有効である。一方、苦戦している学生に対しては、定期的に状況をヒアリングして、きめ細かな支援をする必要がある。

外国人留学生に対する就職支援の基本型

『就職できている留学生』には３つのパターンがある。
個々の留学生の状況や能力を考慮して、以下の3パターンのいずれかに導く。

パターン１　日本人と同等以上に日本型就職活動ができる留学生

＞中国や韓国、台湾など漢字圏や文化が比較的似ている国・地域からの留学生に多い。

＞ウェブテストやES、その他就職活動の課題を“受験”のように捉えてクリアする。

パターン２　日本企業との関係づくりに成功した留学生

＞企業人との交流を支援することで、語学力だけによらない採用を実現する。

＞ウェブテストやESなど日本型就職活動に馴染まない留学生はこの方法を取る。

パターン３　条件や待遇面の希望を見直した留学生

＞主に「勤務地」「仕事内容」「雇用形態」などの希望を修正して、就職する。

＞希望条件を見直さず、もう１年就職活動に取り組む留学生も一部存在する。

就職支援内容例の一覧

個別面談	1回あたり50分間の留学生専任キャリアアドバイザーによる個別面談。相談内容は就職活動全般の質疑応答からES添削、模擬面接、在留資格変更、進路変更、帰国後のキャリアなど幅広い。年間80名ほどの外国人留学生が利用している。
留学生就職ガイダンス セミナー・イベント	日本での就職を少しでも考えている全ての外国人留学生に向けた内容。幅広い留学生が参加できるようお昼休みなどに実施している。また、英語でも実施している。
自走型留学生 就職支援プログラム	日本語力が高く、また在留期限上の制約も少なく、日本人と同様に就職活動が可能な外国人留学生向けの就職支援プログラム。内定者の先輩が自己の経験を後輩に提供、指導することで成功体験を継承・拡大させている。
伴走型留学生 就職支援プログラム	日本語能力、在留期限、その他何かしらの理由により日本人と同様の就職活動ができない外国人留学生向けの就職支援プログラム。個別面談で状況を追いながら、それぞれに必要な支援を提供していく。
インターンシップ調整	本学の外国人留学生がインターンシップの機会を得られるよう、企業様のニーズを細かくヒアリングし、なるべく負担の少ない形で進められるよう調整をする。

個別面談

個別面談では、多様な個々のニーズに適切な回答を与える。

利用者

延べ人数　：81名
実人数　：53名
リピート率：11.32%

相談内容

① 就活概要　：59名
② 業界・企業：34名
③ 進路選択　：29名

流入経路

① センター窓口：13名
② 口コミ　：12名
③ 学内掲示　：10名

所属別

大学　：25名
大学院　：14名（11名+3名）
交換留学：7名
研究生　：7名

※上記の数字は、東京外国語大学における2017年4月から2018年3月までの結果です。

留学生就職ガイダンス・セミナー・イベント

最初は幅広い留学生に対する一般的な説明をおこなう。
徐々に対象を絞って、具体的かつ実用的な情報を提供する。

時間確保が難しい留学生でも毎回参加しやすいようにお昼休みに実施。正規の学部生、大学院生、研究生、交換留学生など、全ての留学生に共通する内容を『就職ガイダンス』として4月と10月に開催。その後、在籍期間や卒業年月、専攻科目ごとに異なる実際の就職活動をパターン別に説明する『就職セミナー』を各セグメントに合わせて実施。さらに細かい個々のニーズには、50分間の個別面談で対応する。

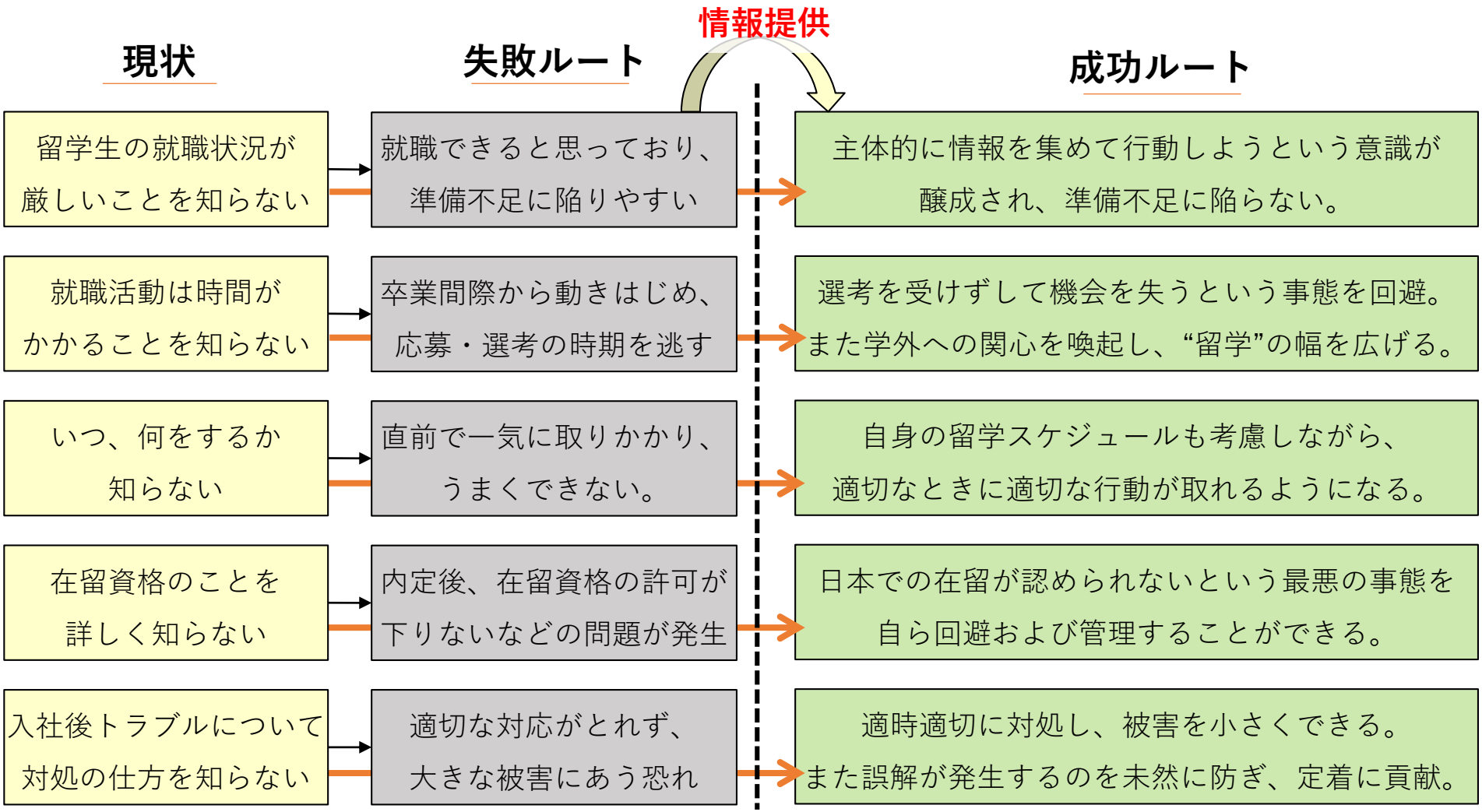
ランチタイムを活用した就職ガイダンス

留学生の採用は、企業もまだ乗り出したばかりであり、内容が確立されてはいない。だからこそ、企業から直接、最新の動向を話してもらう機会の用意が大切。留学生だけを集めた場であるため、説明に訪れる企業のメッセージも、必然的に留学生に向けた真剣なものとなる。

企業を講師に招いての就職セミナー

自走型留学生就職支援プログラム

日本語ができる学生は、なるべく自分自身で動けるよう導く。



伴走型留学生就職支援プログラム

日本語ができない留学生には英語での情報提供と実体験を共有。
そして、日本人・企業との人脈形成を徹底的にフォローアップする。

英語での就職ガイダンス

元留学生者社会人のトークセッション

就職に向けた日本語コミュニケーション講義

社会人とのネットワーキング

インターンシップの調整

「コミュニケーションにおいて無理なく、負担なく取れる体制づくり」がポイント

そのために学校ができる支援内容

① 学内における基礎研修（日本語支援、時間感覚の厳しさ、対立回避と間接性など）

② 事前の職場見学とアンケート（疑問や不安を英語か日本語でヒアリング）

③ 「ハブ人材」のアサイン（日本人だと募集も管理も楽）

④ 始業と終業時の5分程度のラップアップの推奨

⑤ インターンシップ終了後の振り返り（学校が主導して、外国人留学生と企業との双方に対して行う）

※文部科学省による「世界展開力強化事業（中南米）」のインターンシップの様子